

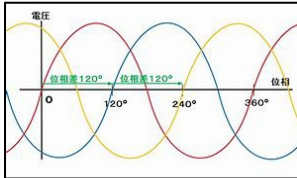
デザイナーのための経済コラム(55)

1極、2極、3極、多極、数字の意味を超えた意味

1, 2, 3, 4... 数字には量の意味を超えた意味があります。その意味の方が量の意味よりも、古いのではと考えます。

1極集中という表現が時々見かけますが、2極、3極とはあまり見かけません。2極、3極について実生活の上ではあるのか、日常生活レベル、で考えてみました。

電気で考えて見ました。交流でも、直流でも+- (プラス・マイナス) の2極があります。静電気には-(マイナス) の1極しかないように見えますが、実際は、帯電しているものと、帯電していないものの2極があります。雷は雲がマイナスで地上側がプラスです。三相交流では3極あるように見えますが、あるのは2極です。もう一つあるのは中性の極です。三相交流は3つの極が固定せずに、マイナス、中性、プラスの極を循環させています。物事のローテーションの基本形がここにあるといえます。



三相交流の波形



三相交流モーター



落雷



ラジオ・TV
CD・DVDプレーヤーは直流

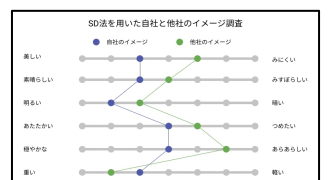
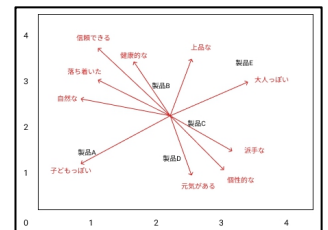


角型9V乾電池

1極、「神」や「善」や「美」は自然科学の対象ではなく、人文科学の対象です。「神」の定義は宗教、宗派によって教義は微妙に違います。「善」も社会の成熟度合いによって異なります。「美」の定義も文化の成熟度、個人やグループによって異なります。一神教では「神」が有るか無いかを論じることはなく、「有る」しかない思考の世界です。ここでは「無い」という発想の存在は認めない、「唯我独尊(存)」の世界を作ってしまう。究極の倫理は「他者の存在を否定しないこと。」と教えられたことがあります。

人文科学分野の経済、文化の世界ではアイデンティティ・独自性、個性の追求がその分野の発展に必要なこととも思います。人文科学の世界で違いを強調することは常にある種の危険を伴っています。「神」の違いは「宗教の違い」となり、「善」の違いは「政治の違い」となり、独善となり、他者否定の芽生えとなる危険性があります。この危険をさけようとする発想の一つが多様性の尊重の精神といえると思います。

2極構造で外界を認識するのは極めて人間的、感覚的な思考だと思います。それはどの言語にもある対(ついで)となる形容詞です。上下、明暗、高低、美醜、老若、内外、貧富、善悪、良悪、軽重... これらの対となっている形容詞は表現に大変便利なので日常的には頻繁に使われているために、定性的な表現として発想や評価が早いという利点があります。しかし、実際にはどんな現象にも程度の違いがあります。無段階に、グレーションとなっている違いは正確に表現できません。そこで、さらに工夫されたのが数値で表現する方法です。数量表現でグレーションを表現することです。白、灰色、黒では3段階ですが、%で無段階に近い灰色を表現できるようになります。マーケティングでは評価の違いを多様な形容詞で視覚化しようとする。グラフを作成するときの要因、要素は名詞や形容詞です。セマンティックデファレンシャル法(SD法)と呼ばれています。



SD法による分析図の例

3極を日常的な言葉で説明しているもののひとつに「さんすくみ」と言われる関係にあるものかと考えます。「巴(ともえ)」、「ゲー・チョキ・パー(ジャンケン)」、「行政: 業界: 消費者」、「生徒: 教師: 親」、「三権分立(司法・立法・行政)」、「左派・中道・右派」、「三位一体」、「釈迦三尊」、「鼎談(ていだん)」これらの考え方は互いに対立と依存によって安定性、バランスを求める思考ともいえると思います。

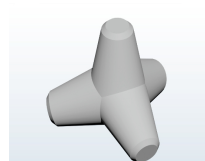
安定性を求める物には、
カメラの3脚(トライポッド)、
海岸や河川の護岸に
使われるテトラポッド(4つ脚)
炉で使う五徳
(3脚とはいわずに)



巴



三脚



テトラポッド



五徳(ごたく)



鼎(てい)

多元的、多極的な発想は古今東西にあったと思います。日本では「古事記」、「万葉集」、「正倉院」、「百人一首」、「里見八犬伝」、「西国八十八ヶ所」、「いろはかるた」、「紅白歌合戦」、「百貨店の食堂」、「百均ショップ」。外国では「キリシヤ神話」、「イソップ寓話」、「千夜一夜物語」、「大英博物館」、「ベルリン博物館」、「スミソアン博物館」... 多様性は多くの極を意識することで、創造性の源泉といえると思います。

(T.K.)